

(19)日本国特許庁 (JP)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号  
特開2002-306228  
(P2002-306228A)

(43)公開日 平成14年10月22日 (2002.10.22)

(51)Int.Cl.<sup>7</sup>

A 45 C 13/30

G 03 B 17/56

識別記号

F I

A 45 C 13/30

G 03 B 17/56

テマコード<sup>7</sup>(参考)

C 2H105

H

D

審査請求 未請求 請求項の数3 OL (全5頁)

(21)出願番号

特願2001-117580(P2001-117580)

(22)出願日

平成13年4月17日(2001.4.17)

(71)出願人 501155434

株式会社 習志野ストラップ  
東京都江戸川区江戸川6-8-22

(72)発明者 内海 陸哉

東京都江戸川区江戸川6-8-22 株式会  
社習志野ストラップ内

(74)代理人 100111442

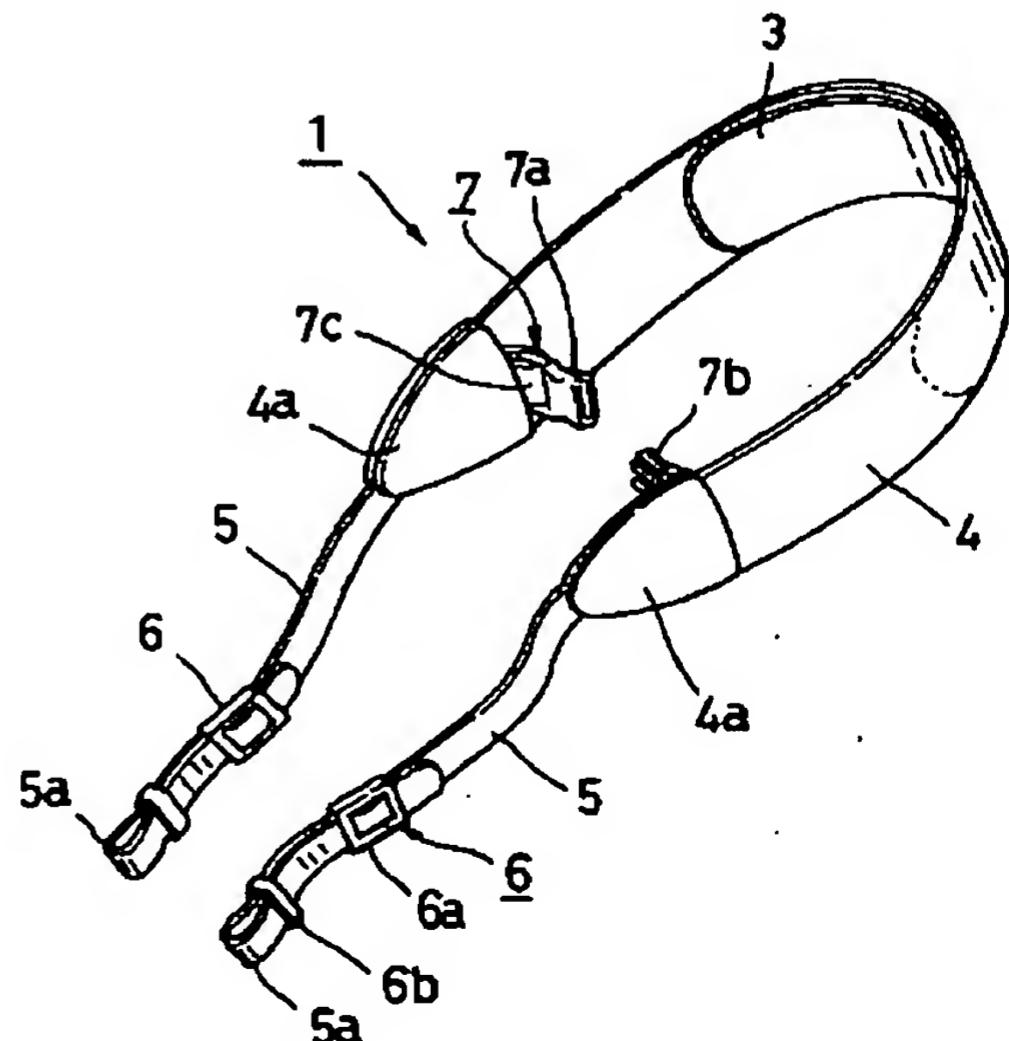
弁理士 小原 英一  
Fターム(参考) 2H105 BB03 BB05 BB06 BB07

(54)【発明の名称】 ショルダーストラップ

(57)【要約】

【課題】普段は器材本体が腰部に位置するショルダーストラップを、ワンタッチで器材本体が脇の下の直下に位置するようなショルダーストラップを提供する。

【解決手段】ショルダーストラップ両末端に器材本体を着脱自在に係止する器材係止部を設けた係止部が腰部に位置するようにしたショルダーストラップにおいて、ストラップは所望の巾を有するとともに、ストラップ両末端を合わせて二つ折りにした状態におけるほぼ中間部の、ストラップが対応する内側面に一对の着脱自在の中間係合部材を設けたショルダーストラップである。



## 【特許請求の範囲】

【請求項1】ショルダーストラップ両末端に器材本体を着脱自在の係止する器材係止部を設け、該係止部が腰部に位置するようなショルダーストラップにおいて、該ストラップを所望の巾とともに、ストラップ両末端を合わせて二つ折りにした状態におけるストラップが対応するほぼ中間部の内側面に、一对の着脱自在の中間係合部材を設けたことを特徴とするショルダーストラップ

【請求項2】請求項1に記載のショルダーストラップにおいて、前記中間係合部材は多少内側に湾曲した平型の形状であって、中間係合部材を係合した際には捩れのない内側面を形成すようにしたことを特徴とするショルダーストラップ

【請求項3】請求項1又は請求項2に記載のショルダーストラップにおいて、前記中間係合部材の内側面にパッドを取り付けたことを特徴とするショルダーストラップ

## 【発明の詳細な説明】

## 【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、カメラ・ビデオ・携帯電話・ノートパソコン等を携帯する際に、首や肩等に掛けて携帯・保持するようにしたショルダーストラップの技術分野に属する。

## 【0002】

【従来の技術】カメラ・ビデオ・携帯電話・ノートパソコン・ゲーム機等を携帯する際にショルダーストラップが用いられ、ストラップ環紐を肩や首に掛けてカメラを携帯することが広くなされており、これら従来のショルダーストラップまたはネックストラップが肩当てパッドが肩や首の部分に合わない場合は、あるいは身体の長さが合わない場合には、ストラップ末端の調整部材でストラップ紐の輪の長さを微調整したのち締着することがなされている。また、カメラ等のストラップにおいて、長さを大きく調整可能なものが、実開昭60-163034号公報や、特公平7-38811号公報に記載されている。

## 【0003】

【発明が解決しようとする課題】ところで、従来のショルダー(ネック)ストラップは、カメラ・ビデオ・携帯電話・ノートパソコン・ゲーム機等が腰部に当たる位置になり、不安定で他の物や人に接触したり、これら器材本体に損傷を与える場合もあり、幼児を連れている場合には、幼児に怪我をさせることもあった。また、観光旅行等の外出で、ストラップ環が大きいと身体から外れやすく、ひったくり等の犯罪に合う場合も多々あった。このため、カメラ・ビデオ等の器材本体が脇の下に位置するような比較的短いストラップ環の脇の下固定の専用ストラップもあるが、カメラ・ビデオ等の偶発的で機敏な操作が求められる場合は、ストラップ環が大きいショルダーストラップやネックストラップのほうが便利である。

【0004】また、普段はショルダー(ネック)ストラップとして使用し、必要に応じて、ストラップ末端の調整

部材でストラップ紐の輪の長さを調整して、極端に短くしたハンドストラップ等として用いることも、上記実開昭60-163034号公報・特公平7-38811号公報として提案されているが、実開昭60-163034号公報のストラップは長いストラップ自体を幾重にも折り畳んで肩カバーで包まなければならず、ワンタッチで器材本体が脇の下に位置するようなショルダーストラップとすることはできないという問題点があり、特公平7-38811号公報のストラップも、余分なストラップ部分を引き出して短く結んでハンドストラップとするもので、上記先行技術と同様に、ワンタッチで器材本体が脇の下に位置するようなショルダーストラップにすることはできないという問題点があった。

【0005】本発明は、上記の問題点に鑑みてなされたもので、その課題は、普段は器材本体が腰部に位置するショルダーストラップを、ワンタッチで器材本体が脇の下直下に位置し、腕で本体機器を固定のようなショルダーストラップを提供しようとするものである。

## 【0006】

【課題を解決するための手段】上記の課題を解決するために、請求項1に記載の発明は、ショルダーストラップ両末端に器材本体を着脱自在の係止する器材係止部を設け、該係止部が腰部に位置するようなショルダーストラップにおいて、該ストラップを所望の巾とともに、ストラップ両末端を合わせて二つ折りにした状態におけるストラップが対応するほぼ中間部の内側面に、一对の着脱自在の中間係合部材を設けたことを特徴とするショルダーストラップである。請求項2に記載の発明は、請求項1に記載のショルダーストラップにおいて、

前記中間係合部材は平型の形状であって、中間係合部材を係合した際には捩れのない内側面を形成すようにしたことを特徴とするショルダーストラップである。請求項3に記載の発明は、請求項1又は請求項2に記載のショルダーストラップにおいて、前記中間係合部材の内側面にパッドを取り付けたことを特徴とするショルダーストラップである。

## 【0007】

【発明の実施の形態】本発明の好適なショルダーストラップの実施例を図に沿って説明する。図1は、本発明の第1の実施例で、ショルダーストラップ1にカメラ・ビデオ・携帯電話・ノートパソコン・ゲーム機等の器材本体2を係止した状態、図2(a)に示すように首に回して普通の状態で使用する場合である。図1において、ショルダーストラップ1の肩当てパッド3を取り付けた広巾部4はストラップ全体の長さのほぼ半分の長さを占め、巾広部4に統いて結合部材4aを介して一对の細巾部5が設けられ、細巾部5のストラップ両末端5aには器材本体2を着脱自在に係止する器材係止部6が設けられている。

【0008】この器材係止部6は、細巾部5の長さ調節

部材6aと、ストラップの細巾部5を折り畳み固定する折畳具6bとからなり、ストラップ環の輪の長さを微調整する。本発明の実施例の特徴部分であるストラップ環の輪の長さを、全体のほぼ半分の長さする中間係合部材7を設けたものであるが、この中間係合部材7は図3(a)の係合前の平面図に示すようにベルト型バックルであり、この中間係合部材7は一対の雌部7aと雄部7bからなり、係合した際には図3(b)の平面図、図3(c)の側面図で示すように平型の形状である。そして、中間係合部材7の雌部7aと雄部7bとは、係合した際にはストラップが捩れのないような内側面を形成し、ストラップ両末端を合わせて二つ折りにした状態におけるほぼ中間部に細巾ストラップ7cを介して、それぞれ幅広ストラップ4に縫い付けたものであり、ワンタッチで素早く結合できる。

【0009】この際の中間係合部材7の結合力は、器材本体2に大きな力が加わっても簡単に外れることがないような構成でなければならず、必要に応じて即座に外せるのである必要がある。これには、1例として、図3に示すようなベルト嵌合型の係合部材が適するが、要はワンタッチで結合でき、器材本体2に大きな力が加わっても外れることがなければ、他の公知の係合部材でもよい。また、間係合部材7を多少内側に湾曲した平型としたのは、肩や手の平に当たる部分に突起部があると、その部分が痛くなるのでこれを防ぐ為である。こうして、中間係合部材7の結合した状態を図4に示すが、ストラップとして使用する部分は中間係合部材7の結合した下半分となり、器材本体2を係止した状態では、図2(b)に示すように、器材本体が脇の下に位置するようなショルダーストラップとなる。勿論、ストラップ1環の輪の長さが全体のほぼ半分の長さとなったことで、ハンドストラップとしても使用できる。

【0010】本実施例は、上述したように、普段は図2(a)に示すような、長いショルダーストラップ或いはネックストラップを、ワンタッチで器材本体が脇の下に位置し、腕で固定できるような短いストラップ輪のショルダーストラップ、或いは、ハンドストラップとして用いることができ、ストラップ輪のショルダーストラップとした場合には、器材本体2が他の物に接触することが少なくて器材本体に損傷を与えることがなく。また、小さな子供や幼児を連れている場合にも怪我をさせることがなく、更に、ストラップ環が小さいので身体から外れ難く、ひったくり等の犯罪に合うことも防止でき、かつ、カメラ・ビデオ等の偶発的で機敏な操作が求められる場合にも、ワンタッチでストラップ環を大きくして、ショルダーストラップやネックストラップとして簡単に利用できる。

【0011】[実施例2]図5に第2の実施例を示すが、中間係合部材8の構成以外は第1の実施例と同じであるので説明を省略し、中間係合部材8の構成を説明する。この中間係合部材8は図4の側面部に示すように、実施

例1と同じように、中間係合部材8は一対の雌部8aと雄部8bからなり、係合した際には図4に示すように多少内側に湾曲した平型の形状であり、中間係合部材8の雌部8aと雄部8bとは、係合した際にはストラップが捩れのないような内側面を形成し、細巾ストラップ8cを介して縫い付けたものであり、ワンタッチで素早く結合できるものであり、結合力は、器材本体2に大きな力が加わっても外れることがないようものを選択している。そして、第2の実施例では、中間係合部材8の雌部8aと雄部8bおよび細巾ストラップ8cの内側面には、厚手のパッド部8dを設けて、ストラップがあたる肩や手の平の部分に、この厚手のパッド部8dが当たるようにして、局部的に痛くなることを防いでいる。その他の構成や作用、および、使用方法は第1の実施例と同じである。

【0012】[実施例3]図6に第3の実施例を示すが、ショルダーストラップ9を均一な巾で比較的細巾とし、ショルダーストラップ9の両末端を重ねあわせて結合部材9aで結合し、結合部材9aに器材本体を係止する器材係止部として環状細紐9bを設けたものであり、他の構成は前述した実施例1または実施例2と同じであり、使用方法や作用もこれらと同じである。

【0013】なお、本発明の特徴を損うものでなければ、上記の実施例に限定されるものでないことは勿論である。例えば、中間係合部材8は雄雌嵌合型のベルト型バックルを使用したが、要は器材本体に大きな力が加わっても簡単に外れることがなく、必要に応じて即座に外せるものであれば、公知のナスカン型バックルでも、加圧がた布ファスナーでもよい。

【0014】  
30 【発明の効果】以上説明したように、請求項1に記載の発明によれば、ショルダーストラップ両末端に器材本体を着脱自在の係止する器材係止部を設け、器材係止部が腰部に位置するようにしたショルダーストラップにおいて、ストラップは所望の巾を有するとともに、ストラップを所望の巾とするとともに、ストラップ両末端を合わせて二つ折りにした状態におけるストラップが対応するほぼ中間部の内側面に、一対の着脱自在の中間係合部材を設けたから、普段の使用や器材本体を使用する場合には、ストラップ環の長さを長くして通常のショルダーストラップ或いはネックストラップとして使用でき、持ち運び時には、ワンタッチで器材本体が脇の下に位置し、腕で固定するようなショルダーストラップ、或いは、ハンドストラップに変えることができる。

【0015】請求項2に記載の発明によれば、ストラップ環の内側は捩れないようにして、中間係合部材は多少内側に湾曲した平型の形状としたことから、肩や首に当たる部分は異物感が少くなり痛くなるようなことが防げることができ、請求項3に記載の発明によれば、中間係合部材の内側面にパッドを取り付けたから、更に、異物感が少くなり痛くなるようなことが防げる。

## 【図面の簡単な説明】

【図1】本発明の好適なショルダーストラップの第1の実施例の中間係合部材を系合していない状態での全体を示す斜視図である。

【図2】本発明の好適なショルダーストラップの第1の実施例の使用している状態を示す図で、図2(a)は通常の長いストラップ環のショルダー(ネック)ストラップとしての使用状態図、図2(b)は短いストラップ環の器材本体を脇の下に固定するショルダー(ネック)ストラップのとして使用状態図である。

【図3】図1の第1の実施例での中間係合部材の拡大図で、図3(a)はその係合前の平面図、図3(b)は係合後の平面図、図3(c)は係合後の側面図である。

【図4】本発明の好適なショルダーストラップの第1の実施例の中間係合部材を係合した状態での全体を示す斜

視図である。

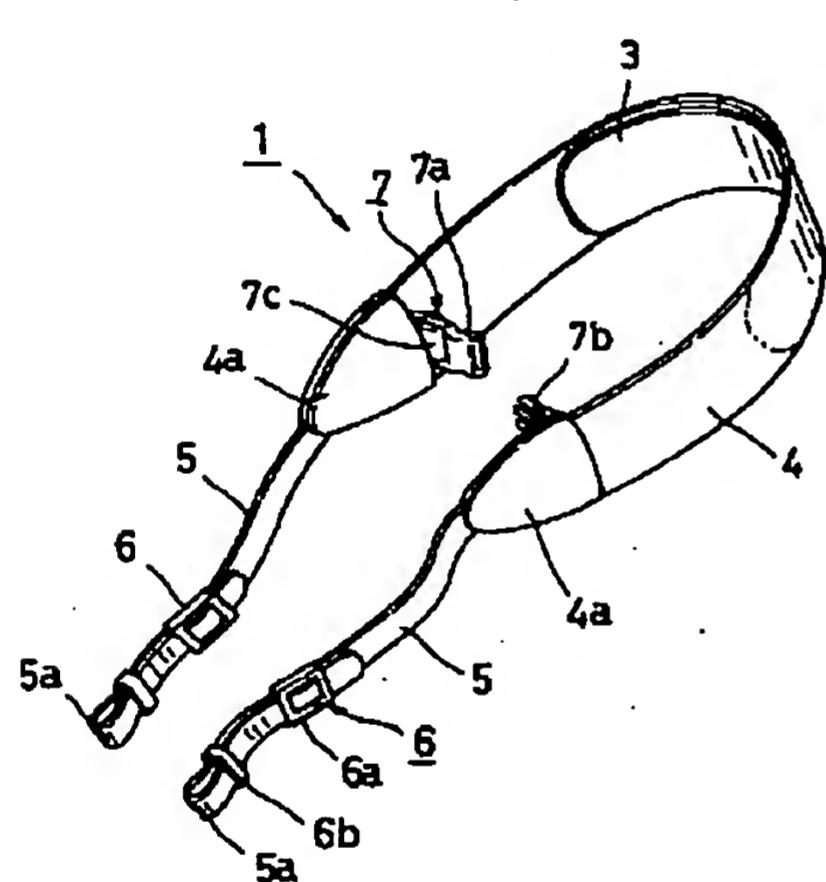
【図5】本発明の好適なショルダーストラップの第2の実施例の中間係合部材の系合後の側面図である。

【図6】本発明の好適なショルダーストラップ第3の実施例の中間係合部材を系合していない状態での全体を示す斜視図である。

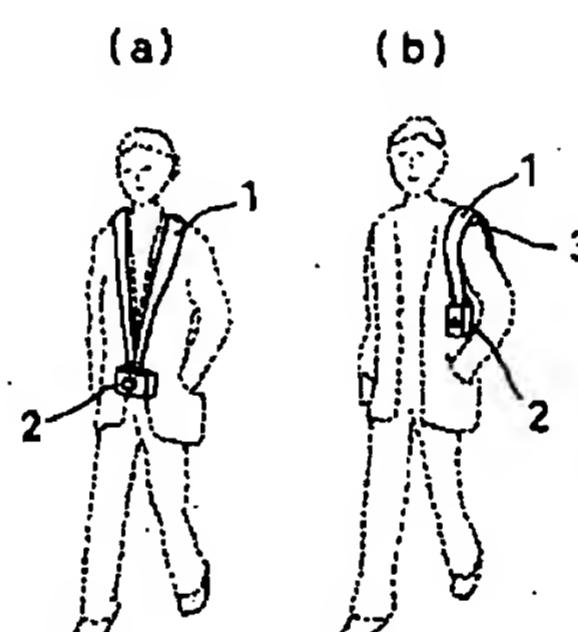
## 【符号の説明】

1…ショルダーストラップ、2…器材本体、3…パッド、4…広巾部、4a…結合部材、5…細巾部、5a…細巾部の折曲先端部、6…器材係止部、6a…調節部材、6b…折疊具、7…中間係合部材、7a…雌部、7b…雄部、7c…細巾ストラップ、8…中間係合部材、8a…雌部、8b…雄部、8c…細巾ストラップ、8d…パッド部、9…ショルダーストラップ、9a…結合部材、9b…環状細紐

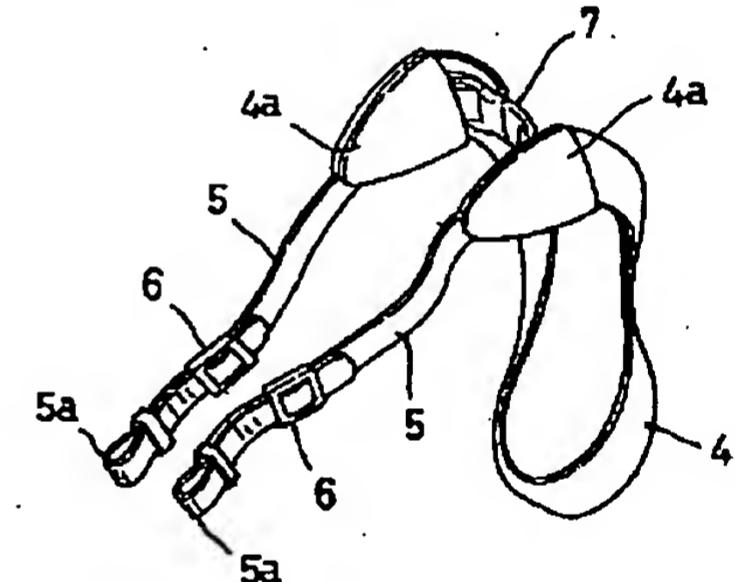
【図1】



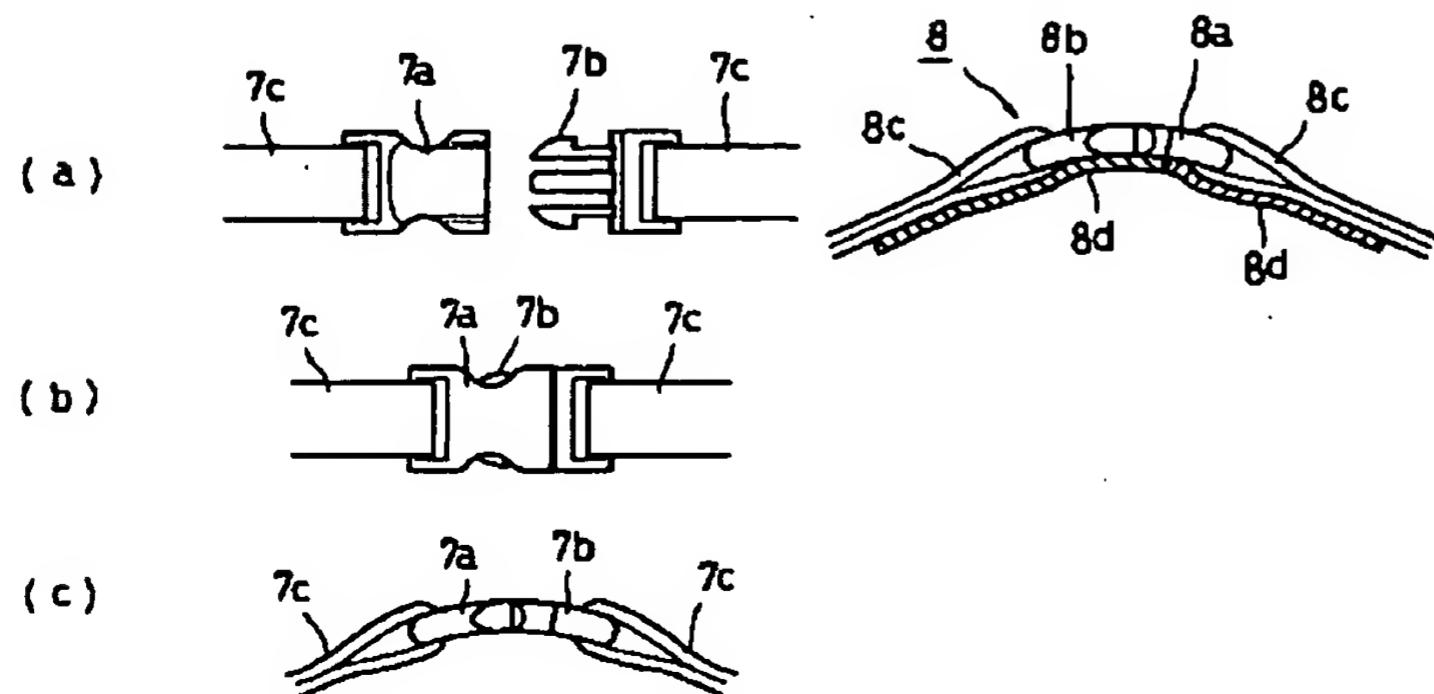
【図2】



【図4】

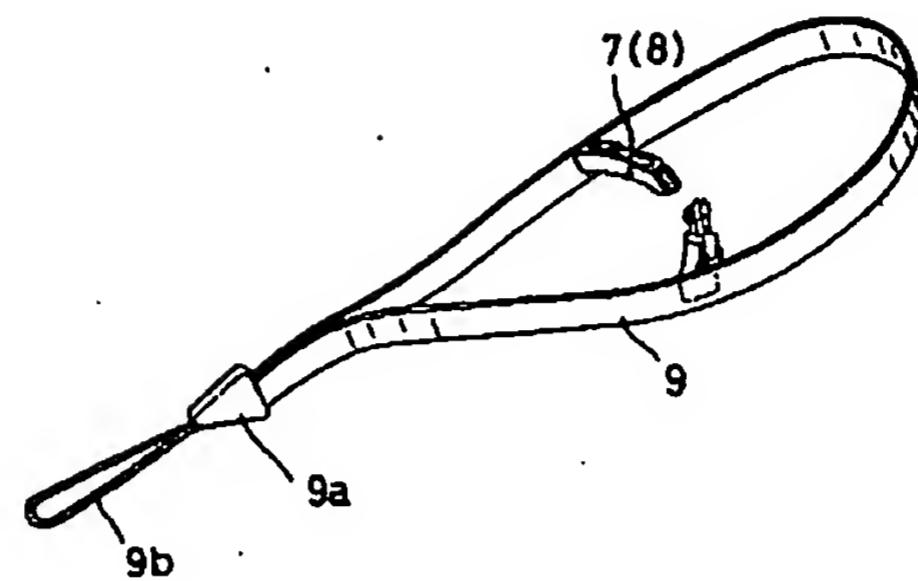


【図3】



【図5】

【図6】



DERWENT-ACC-NO: 2002-719703

DERWENT-WEEK: 200305

COPYRIGHT 2005 DERWENT INFORMATION LTD

TITLE: Shoulder strap for carrying e.g. camera, has  
pair of intermediate engagement members provided to  
inner surface of intermediate parts of strap

PATENT-ASSIGNEE: NARASHINO STRAP KK[NARAN]

PRIORITY-DATA: 2001JP-0117580 (April 17, 2001)

PATENT-FAMILY:

PUB-NO	PUB-DATE	LANGUAGE
PAGES MAIN-IPC		
JP 2002306228 A	October 22, 2002	N/A
005 A45C 013/30		

APPLICATION-DATA:

PUB-NO	APPL-DESCRIPTOR	APPL-NO
APPL-DATE		
JP2002306228A	N/A	2001JP-0117580
April 17, 2001		

INT-CL (IPC): A45C013/30, G03B017/56

ABSTRACTED-PUB-NO: JP2002306228A

BASIC-ABSTRACT:

NOVELTY - Detachable equipment engaging parts (6) for clamping to the equipment to be carried are provided to the strap both ends. A pair of intermediate engagement members (7) is provided to the inner surface of the intermediate parts of the strap.

USE - For carrying e.g. camera, mobile telephone and notebook personal computer.

ADVANTAGE - Prevents twisting of inner side of strap ring. Main body of equipment can be positioned in armpit by one-touch when carrying.

DESCRIPTION OF DRAWING(S) - The figure is a perspective view showing the shoulder strap.

Equipment engaging parts 6

Intermediate engagement members 7

CHOSEN-DRAWING: Dwg.1/6

TITLE-TERMS: SHOULDER STRAP CARRY CAMERA PAIR INTERMEDIATE ENGAGE MEMBER INNER

SURFACE INTERMEDIATE PART STRAP

DERWENT-CLASS: P24 P82

SECONDARY-ACC-NO:

Non-CPI Secondary Accession Numbers: N2002-568341